

# 平成17年度 和歌山県名匠

## 【表具師】

は ひょう ぐ し  
羽 山 直 幸

【現住所】由良町

【生 年】昭和6年

### 業績及び経歴

昭和6年日高郡由良町で生まれる。昭和23年に海南市の漆芸しつげいの公共訓練所まきえに入学し、蒔絵についての知識を学ぶ。その後、和歌山市の表具師内田義仲氏に弟子入りし、表具師の道に入る。

厳しい修行時代を経て、昭和43年から自宅で表具店を経営し、昭和45年には表具技能検定一級試験に合格する。

表具師の仕事は、痛んだ掛け軸や屏風などの修復から、襖や障子などの建具関係の新調や修理など多岐にわたるが、どの作業も非常に複雑で、経験と熟練した技術が必要である。

特に、氏は、蒔絵技法という伝統的な保存技術を用い、数多くの寺社仏閣の宝物修理を行っている。主な修復文化財としては、称名寺蔵「良如上人画」、東泉寺蔵「仏涅槃図」、興国寺蔵「仏涅槃図」、念興寺蔵「親鸞上人掛軸」、蓮専寺蔵「親鸞上人一代記画」などが挙げられる。さらに、遠方からも修復の依頼があり、氏の技術の高さが窺い知れる。

また、日本文化の伝統技術保持者としても優れており、蒔絵技法と表具の技術を活かして獅子舞の獅子頭制作に取り組み、氏の制作した獅子頭が周辺市町村で利用され、由良町の県指定無形民俗文化財の獅子舞にも使用されている。

昭和61年に由良町教育委員会感謝状を、平成13年に由良町文化功労賞を、平成14年には和歌山県のふるさと名人紀の人賞を受賞している。